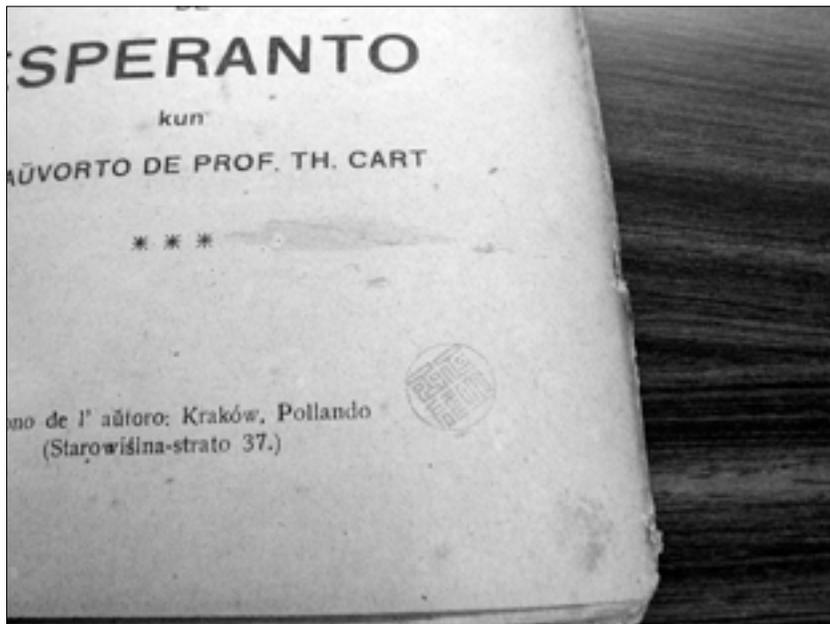


センター通信

第251号

2007年2月27日発行

名古屋エスペラントセンター Nagoja Esperanto-Centro
461-0004名古屋市東区葵一丁目26-10ユニブル新栄301号
郵便振替 00840-8-40765 [名古屋エスペラントセンター]
<http://homepage2.nifty.com/nagoja-esperanto/>



鈴木巖さんの遺族から寄贈がありました。印鑑が押された本、裏には1927年という書き込みがある。Foto：山田義

目次

寄贈の本-----	1
総会のお知らせなど-----	2
東海大会速報-----	3
横浜エスペラント週間2007-----	6
オーストラリア夏期講習-----	4
Budhana Festo -----	8
編集後記-----	8

2007年総会開催のお知らせ

日時： 2007年3月17日(土)午後2時から5時
場所： 名古屋エスペラントセンター事務所
名称： 名古屋エスペラントセンター維持員総会
出欠の連絡： 維持員の方は、本誌同封のハガキにより、出欠のご連絡をお願いします。

部屋の貸し出しについて2月の委員会で申し合わせがありました。

山口委員長が一元的に管理するので、貸し出し希望者は山口真一さんへ連絡し、承認を受けてください。エスペラントの講習会などが優先されます。承認済みの貸し出しについては、<http://homepage2.nifty.com/nagoja-esperanto/> の「掲示板」で公表します、こちらもごらんください。

速報：2007年の東海大会

今年は黒柳吉隆さんの呼びかけで準備が進んでいます。

2007年6月16日（土） 東海市勤労センター（東海市） 宿泊もできる会場です。

<第9 2回世界エスペラント大会の期間中

JOKOHAMA ESPERANTO-SEMAJNO 2007

「横浜エスペラント週間2007」

横浜での世界大会は、若い人をはじめ一般の方にエスペラントを知ってもらう絶好のチャンスです。そこで、本大会とは違い、一般の出入りが許されている青年プログラムを、一般プログラムとしても更に充実させ公開イベントとし、エスペラントに関心のある人たちが自由に参加できるものになります。

開催日：2007年8月4日（土）～8月11日（土）

会場：ZAIM 横浜公園前

パシフィコ横浜より徒歩と電車（みなとみらい線日本大通り下車）で15分。横浜スタジアム近く、旧関東財務局の建物等を利用したクリエイティブ・サポートセンター別館2階借り切り。

プログラム（予定）：

1. 展示「エスペラントでこんなことができる！」
2. 市民向けエスペラント講習会
3. コンサート・ダンス等の音楽プログラム
外国よりエスペランティストの音楽家（Asorti他）を招待の予定
4. 日本文化紹介プログラム（盆踊り、三味線講座その他多数）
5. 詩の朗読イベント
国内の詩人、外国のエスペランティスト詩人の招待を計画
6. 遠足

「青年・公開プログラム」担当者によると、大会期間中、世界大会の主会場の「パシフィコ横浜」とは別の場所に会場（ZAIM）を常設し、そこが世界中からの青年をはじめとする大会参加者が自然発生的なイベントを行うこともできる場、語り合う場としたいととのこと。決して「青年」のためだけのプログラムではなく、すべての大会参加者、また一般市民が、エスペラントを媒体として楽しめるプログラムにしたいと考えています。

Alia kongresejo "ZAIM"

Junulara kaj publika programoj okazos en alia kongresejo nomata "ZAIM", kiu situas 20 minutojn for de la ĉefa kongresejo. Okazos tie tre buntaj programeroj dum la kongresa semajno preparitaj de junuloj kaj lokaj esperantistoj: koncertoj de "Asorti" (Litova muzika grupo) kaj Okinava muzika grupo, prezentado de lokaj produktaĵoj en Japanio, allogaj ekskursoj en Jokohamo kaj Tokio, kurso de Esperanto por civitanoj, diskoteko ktp, ktp. Vi estos tre bonvenaj ankaŭ al la alia kongresejo: ZAIM.

オーストラリア夏期講習

(AESK : Aŭstralia Esperanta Somera Kursaro)

参加の報告：サリーコ・黒柳吉隆

昨年に続いて今年もまた、AESKに参加してきました。AESKについては、JEIからPontoliborojの1つとして最近出版されましたので、それを見てください。

今年は、タスマニア島（島とはいえ、北海道よりひとまわり小さいくらいの大きさ）の州都ホバートのタスマニア大学のアパートで行われました。景色も空気もきれいで夏でも涼しく快適な環境です。大学は、市の郊外の丘陵地にあり、普通の市街地（住宅地）と隔てる塀とか門はなく、学生が住むアパート群は丘陵地の一番の高台にあります。10分ほど坂道を下ったところにバス停がありましたが、街まで歩いても半時間ほどです。アパートを夏休み中は夏季講習用に開放しているのです。私たちの他に、韓国から学生50人ほどが1か月の英語研修に来ていましたし、私たちの後には、世界各地から技術研修の人が来ました。

「アパート」とオーストラリアの人たちは呼んでいましたが、トイレとシャワーは共同でも、個室はホテルの部屋に近く、ベッドと机、整理たんすなどが備え付けられ、バスタオルとシーツは2週間

の間に3回取替えてくれました。建物の入り口（21時以降施錠）と部屋の鍵（カード）が渡されます。

談話室、会議室、食堂もあり、学習にはその会議室が使われました。食事もおいしく、誰かが、「来たときは人間だったが、帰りには牛になってしまう」と心配していました。学習の間のコーヒータイムには、食堂で飲み物が自由に取れますし、無料の洗濯機、乾燥機もあり、アルコール類さえスーパーで買い



(タスマニア大学のアパートの談話室)
左から、トシ、アイバン、キベ、ヘイゼル、マルセル、ヘダー、パウロ

込めば、そこで不自由なく生活できます。これが、2回の週末のバス遠足とパンケードも含めて円換算で8万円余りですから、お値打ちです。そこでの学習、生活は昨年と同じようなものですので省きますが、2週間の講習の後、メルボルンの街と郊外で、1週間の生活を楽しみましたので、それを書きましょう。

メルボルン

メルボルン郊外に住むフランチスカさん（パスポルタ・セルボの宿泊提供者）に、「今年は1週間メルボルンに滞在予定」と事前にEメールで連絡しておきました。「講習会の間に相談しましょう」という返事が来ましたので、すべてお任せして出かけました。「1月21日（日）の夕方、メルボルン空港にアイバンさんが迎えに出て、そこで3泊、水曜日にメルボルンのメンバーと懇親会、その後、フランチスカさんの車で一緒に行って4泊。次の日曜日の朝、空港へ送る」という計画を立ててくれました。

予定通り、メルボルン空港に着くとアイバンさんが出迎えてくれました。彼らは奥さんの仕事の関係で、講習を1週間で切り上げて先に帰っていました。途中で、若い看護師のエスタさんを加えて、シティから5キロメートルほど南の海岸の近くの住宅地にあるアイバンさんの邸宅に着くと奥さんのヘダーさんが愛想よく迎えてくれました。心理カウンセラーをしている彼女は、シチリアでも、タスラでもタスマニアでも一緒だったので、もう他人とは思えません。「昨日、我が家に大きなイベントがあったの」と愛犬が4匹の子犬を産んだことを話してくれました。「サリーコはここ、キベはここ」と同行の吉部さんと2階の別々の部屋を1室ずつ充てがわれ、階下のDLKと併せると正に「豪邸」です。



（林の中で）左からベニー、フランチスカ、サリーコ

間もなくマルセル、アリーシャ夫妻が来られて、ミニパーティです。マルセルさんとはホバートでお会いしたばかりですが、アリーシャさんとは、2人が我が家に来られてから、実に23年ぶりの再会でした。80歳を越しておられるはずですが、そのかくしゃくとした元気さは少し杖を頼りにすること以外、当時と全く変わりません。親愛の情を込めた抱擁が少々照れくさいのですが、うれしいですね。みんな揃ったところでワインで乾杯です。またいろいろな話で盛り上がりました。

翌日、歩いて10分ほどのところにある停留所の側の売店で、まず、トラムの1日切符を買って、市内見学です。6.2ドルで、幾度でもトラムやバス、トレーンの区域内を乗れる

切符です。ゆっくり走るトラムの車窓からアイバンさんの案内が始まりました。シティでは最初に観光センターに立ち寄り地図をもらい、ここに来れば、日本語も話せるガイドが懇切丁寧に旅行案内してくれることを教わる。そこからメルボルン・エス会の会場場所（曜日と時間を決めて定期的に借用している）に寄り部屋を見せてもらい、街を歩き、安くて美味しいレストランを教わる。その後、アイバンさんと別れて、2人であちらこちらを見て歩きました。観光客でにぎわってはいても東京や名古屋ほど肩をぶつける心配がないので、ゆっくりと見学ができました。ガイドブックと地図を頼りに博物館や動物園にも行きました。帰りのトラムは番号で行く先を確かめたのはよかったけれど、1つ前の停留所で降りてしまい、頼りの教会の塔を目指してたどり着きました。夕食をご馳走になってから、まだ明るい海辺へ散歩です。

こうして2日を市内見学に充て、3日目はトレーンで郊外の観光地パフインピリーへ出かけました。終点のベルグレイヴ駅でこの近くに住むマルセルさんと落ち合いそこから最古の蒸気機関車の旅です。さて、ホームの時刻表で調べてベルグレイヴ行きの列車を待てども来るのは途中駅のボックスヒル行きだけです。「とにかく、そこまで行ってみよう」と次の列車に乗ったのが正解でした。その駅から先が工事中で、次の駅との間をバスで代替輸送していました。そしてそこからベルグレイヴまでまた、トレーンに乗りました。ヘダーさんに借りたケイタイでマルセルさんに電話しました。ベルグレイヴ駅に着くとマルセルさんが待っていてくれました。次の蒸気機関車の発車まで時間がある。そこで10数キロメートル先のレイクサイドまで車で行き、帰りだけ蒸気機関車に乗ることにしました。蒸気機関車は観光客を乗せるとゆっくりと林の中を曲がりくねりながら1時余り走ってベルグレイヴに着きました。鉄橋はカーブしていて観光写真の絵になるところでしたがトンネルはありません。また、マルセルさんが駅で待っていて、駅から3キロメートルほどのところにあるマルセルさんの家に行きました。広い林は、マルセルさんが40年間に植えたいろいろな木が200本以上あるとか、立派な大木もあり、みかんもりんごも、いろいろな果物の木もあります。ここではオーストラリアに無い種類の木がたくさんあるの

がご自慢です。

ここでもまた、圧倒されて庭園（というより植物園）見学のあと、ご夫妻と一緒にそのまま車でアイバン、ヘダーさん宅でのバーベキュー・パーティに出かけました。2階のベランダに14人のエスペ란ティストがテーブルを囲んでにぎやかなパーティでは、時の経つのを忘れました。それが終わりに近づくころに遅い夏の日が沈み、数人が帰りましたが、涼しくなってきたので部屋に移動して歓談は続き



(メルボルンのエスペ란ティストとバーベキューパーティ)
左からキベ、ヘダー、アイバン、マルセル、フランシスカ、他

ました。みんながエスペラント語を母国語のように話せるわけではありませんが、みんなそれを話すのです。お世話になったアイバン、ヘダー家を後に、約40キロメートル東のフランシスカ、ベニー家への移動は、ベニーさん運転のカローラで約1時間、すっかり夜も更けていました。「自分達は2階だから、ここは自由に使って」と通されたのは、30畳ほどの居間と別室の寝室。吉部さんは、私に寝室を譲って、居間の片隅にあるベッドに。

郊外・・・自然の中

それぞれ子育てを終え、離婚したふたりが出合ったのがエスペラントの国際大会の会場とか。フランシスカさんが、フランスから移ってきて共同生活を始め、ベニーさんは自力で2階の寝室とシャワールームを増築したのだそうです。目が覚めたときに起き、好きなことをやり、自由に暮らす。定年後の生活の見本のような生き方です。適当に時計の要らない生活の始まりは、自家製のジャム、蜂蜜、果物もたっぷりの朝食でした。外へ案内されると先ず目に留まったのが果樹園、上の方の実はいつもやって来る野鳥のために残し、下の方は網で覆ってあるいろいろな果樹。そして野菜畑それに加えて、4段積みミツバチの巣箱が2つ、他の場所にもまだ2つあるそうです。盛んに蜜を運んでいる。枯れ葉を詰めた特製の煙発生器でちょっと働き者たちを驚かせておいて蓋を開けて蜜が一杯詰



庭の蜜蜂の巣／左からサリーコ、ベニー

まって重い箱を1つ取り出して蜜をなめさせてもらいました。甘い香りが口いっぱい広がる。果樹園の中に遠心分離機などの道具を入れた工房があり、蜂蜜を取るだけでなく、蜂蜜ワインも造るそうです。養蜂はベニーさんの趣味でも、もう玄人の領域にあるようです。ベニーさんが作る人、フランシスカさんが採る人と役割分担で食事の材料は、肉と魚以外は毎度採りたての新鮮な野菜と果物の健康食。

「ちょっと出かけよう」と行く先は、自然の公園、もちろん入場料など取られることもなく、林の中の小路を行くとカモノハシ

とかカンガルーとかオーストラリアならではの動物が野生のまま観察できるのです。適当にテーブルとベンチがあり、場所によっては、かまどもあるので、材料と薪を持っていつてバーベキューもできました。3日間こんな愉快的な生活を楽しませてもらって2人は大満足でした。もちろん話す言葉はエスペラント語ですから、講習会以上にこの言葉を使うトレーニングになりました。

すっかりお世話になった上に、早朝、空港まで送っていただき、有意義な3週間を思い出しながら、帰途につきました。エスペラントの楽しみと豊かさを実感する旅でした。



JBLE(Japana Budhana Ligo Esperantista) okazigos
Budhanan Feston
en Nagojo.

Ni havos la ĝeneralan kunsidon, prelegon "Budhismo en Nepalo" de S-ro Manik Bagracharya, nepalano studanta Budhismon en Aitigakuin-Universitato kaj poste bankedon en vegetara restoracio.

日本仏教エスペランチスト連盟では Budhana Festo を開催します。皆様のご来場をお待ちしています。

日時 2月24日 (土)

場所 東別院会館 (名古屋市中区)

13:30-14:30 総会

15:00-17:00 講演「ネパールの仏教」マニック・バジュラチャールヤ
(エスペランチストではありません。講演は日本語です)

17:30-19:00 懇親会 (菜食料理店)

日本仏教エスペランチスト連盟からのお知らせ

編集後記 風邪を引きました。足下を暖かくし水分を補給してパソコンの前にすわっています。エストニアのリディアさんからメールが週に3通ほどは来ます。今が一番寒いとき。今朝などは極寒のようです。ガラス窓から外気の温度計が見えるように置いてあります。短い昼の陽にあたる屋根の様子にこそ春を感じ、待ちわびているようです。山田義

Ankaŭ hodiaŭ nokte estos tre malvarme. Hodiaŭ matene je la 8-a malantaŭ nia fenestro videblis -23C ! Sed apud Tartu, en la urbo Jõgeva estis la plej malvarma mateno ĉi-vintre, -30,3C! Suno jam havas forton. Tage sunbrilas kaj neĝo degelas sur la tegmento al suno, dum en la flanko sensuna estas -10C.